

「命の与え主イエス・キリスト」

(マルコによる福音書 5 : 22-24, 35b-43)

誰もがもう無理だと思ったヤイロの娘に命が与えられました。主イエスは命の与え主です。聖テモテ教会の歴史はこのことを証ししています。聖テモテ教会の七十年史に、高瀬恒徳先生による信仰歴五十年の方々を祝福する記事が載せられています。

「この七十年という明治、大正、昭和の三代は実に惨憺たる不信時代であった。唯物論、非キリスト教的暴風が吹きすさみ、社会的には大正十二年の大震災、続いて昭和十六年から二十年にわたる太平洋戦争の苦難は大きな試練であった。しかも、この信仰歴五十年以上の同志はこうした絶望的苦闘（迫害と言ってもよいかも知れない）のただ中であって、あらゆる苦痛を克服し、半世紀以上の春秋を神に忠誠を捧げつつ戦いぬいたのである。こうした堅忍不拔の信仰の同志を思うと胸が熱くなる。またその同志の一人ひとりが、祈をもって、礼拝出席をもって、献金によって、教会を支持して今日に至ったのである。なんと尊いことであろう。」

ここに命の与え主、キリストが働かれたことを確信せずにはいられません。ヤイロの娘のように、人の目には死んでいた命がよみがえった、教会の歴史はその繰り返しだったことでしょう。「ただ、信じなさい。」という主イエスの言葉。それは賭けのようにすら思えます。しかしどうでしょう。今からは想像のできない苦難の中で、「ただ、信じなさい」といわれる主を信じ、「信じます」と応えた先人たちの信仰によってこの教会は守られてきたのです。「ただ、信じなさい」その賭けは必ず勝つ。この聖テモテ教会の歴史が、それを約束しています。創立 115 年を記念する今日、あらためて信仰の先達たちを導かれた主イエスの灯りに照らされましょう。